

ロータリーの曙 日本編 2

1923年9月1日、午前11時58分、突如として起こった関東大震災によって、死者9万人、負傷者10万人、焼失68万戸、全壊1万1千戸という大災害となって、首都圏は壊滅的な被害を受けました。

RIの対応は迅速で、震災直後の9月4日にはRI会長ガイ・ガンディカーから、「RIおよび全ロータリークラブは深い同情の意を表す。如何なる事であろうと、遠慮なく申しつけられたし」の励ましの電報が届きます。

東京が壊滅的な状態であったため、大阪クラブが仲介の労をとり、福島幹事が「大阪ロータリークラブは、東京の三分の二と横浜のほとんど全域が崩壊した未曾有の災害に対して、日本国民に寄せられた暖かい同情に感謝すると共に、日本国全体がこの不幸に向かって立ち上がるために勇気と行動と決意をみなぎらせており、救援活動も徐々に進み、大阪ロータリークラブ会員も救援活動に然るべく役割を果たしていることを、国際ロータリーを通じて、アメリカ及び他の国にお伝え願うことを希望します」という電報をRI本部に打電しています。

9月10日にはサンフランシスコ・クラブより1,000ドル、翌11日にはニューヨーク・クラブから1,000ドルの義捐金が到着し、16日にはRI本部より大阪クラブに「電報を拝受しました。RIが救援資金として25,000ドル寄贈することを東京のロータリアンにお伝えください。東京クラブがこの救援資金を受け取って、救援事業に使用するために、現地の銀行口座に振り込むのか、東京に送金するのか、それともどこかに送金するのか、もし東京クラブが受取ることが不可能なら、大阪クラブが代わりに受取ってもらえるのか、ご連絡ください」という書状が届きました。

この電報を受取った大阪クラブ幹事福島は、東京クラブの米山に次のような書状を出しています。「大震災に御無事の由、誠に嬉ばしく存じます。ニューヨーク及びサンフランシスコのロータリークラブより、1000ドル宛送金して来たこと及びその処分方法に就いては、星野氏よりお聞き及びのことと存じます。今日は又、シカゴの本部より次の通り2万5千ドル寄付の申込がありました。その電文をお知らせします。電文の意味は明瞭と存じます。私共は米国ロータリアン一同の深厚な同情に感極まって言葉が出ないのであります。どうか、会員其他に諮られ、なるべく速やかに、御返事を願います。此機会が縁となり御地のロータリークラブは勿論、日本に於けるすべてのロータリー・ムーブメントが大発展をする様希望して止みません。」

相談の結果、義捐金は東京クラブが受け取ることになり、その旨、シカゴ本部に連絡されました。その後世界中のロータリークラブから続々と義捐金が送られ、その合計は最終

的に 74,000 ドルに達しました。クラブの内訳は、アメリカ 375、イギリス 60、カナダ 40、キューバ 6、メキシコ 4、オーストラリア 3、ニュージーランド、オランダ、フランス、パナマ各 2、ペルー、南アフリカ、フィリピン、ブラジル、ノルウェー、デンマーク各 1、合計 16 ケ国、503 クラブに及びました。

東京クラブは特別委員会を設けて、慎重にその用途を検討し、木下産院の建設、小学校の備品整備、ロータリー・ホーム建設、殉職警察官の遺族に対する援助活動を行っています。なお、義捐金の総額については、資料によって幾つかの異なった集計がでていますが、RI に提出された、1924 年 5 月 26 日の最終報告書は次の通りです。なお当時の為替相場は ¥100=US\$49 です。

収入	RI より	74,216 円 30 銭
	他の RC、その他	14,944 円 82 銭
	合計	89,161 円 12 銭
支出	木下産院	10,000 円 00 銭
	小学校	26,731 円 60 銭
	孤児院建設	37,000 円 00 銭
	殉職警察官遺族	15,429 円 52 銭
	合計	89,161 円 12 銭

孤児院は東京市の希望を取り入れて、東京クラブ会員清水釘吉の設計施工による 180 坪の鉄筋コンクリート二階建てで、一階には事務室、保母室、裁縫室、調理室、浴室、二階には居室 6 室、集会室を設け、さらにミシン 15 台を備えた、当時としては最新の施設で、Rotary Home と命名されました。1924 年 10 月 10 日に完成し、当日は、大勢の孤児や東京クラブ会員家族が参加して、開館式が催されました。

この建物は 10 年後に一部修復されましたが、RI 脱退後、東京市に管理が移されて、Rotary Home の名称も消え、その後戦災によって焼失しました。

なお、この震災によって全ての事務用品、書類、認証状、ロータリー旗を失った東京クラブに対して、シカゴ本部より一切の備品が送られてきました。

杉村広太郎の協力によって会報発行の準備が進んでいた矢先に大震災が起こって、一時中断していましたが、1925 年 5 月から、北島亘によって会報が発行されました。この会報は Tokyo Rotary Club Bulletin と名づけられた英文の会報で、外国のロータリアンから高い評価を受けています。全 6 巻から成り、東京クラブの創立から 1940 年 9 月 11 日の解散までの記録が残されています。

当初日本は、RI による直轄クラブとして無地区 Non-District Territory でガバナーもなく、クラブ拡大に不便な状態だったので、RI は米山梅吉を Special Commissioner に任命して拡大に当たらせました。1924 年には大阪クラブをスポンサーとして神戸クラブが、東京クラブをスポンサーとして名古屋クラブが創立され、更に、1925 年には京都、1927 年には

横浜と順次クラブが増えていきました。

次いで、井坂孝が **Special Commissioner** に任命されて、ソウル・クラブが設立され、さらに、大連、奉天クラブが設立されました。

全国レベルの最初の会合は、1926年に大阪で開かれた都市連合会 **Inter-City-Meeting** です。当初は、懇親会として準備を進めていましたが、折角集めるのだから協議事項も入れようということになって、①今後、毎年開催するや否や、②日本ロータリー連盟設置について、③日本各地にロータリークラブを拡大すべきか、④定款・細則を邦訳する必要があるか、⑤ロータリークラブの存在や活動を広報する必要があるか、について、議論しました。午前中の会議に続いて午後は大阪見物、夜は大阪クラブの4階で懇親会を行い、家族を合わせて138名が参加しました。

第2回の都市連合会は1927年東京で、第3回は1928年名古屋で、第4回は1929年に京都で開催される予定でしたが、この年に70区が設定されたため、これが第1回地区大会に変更されました。

1928年10月1日から4日間、東京において、第2回太平洋会議が開催され、外国からはサットンRI会長夫妻を始めとして、109名のロータリアン夫妻、日本からは233名のロータリアンと226名のロータリアン家族が参加しました。アメリカ、ハワイには天洋丸が就航して横浜まで、オーストラリア、ニュージーランドには安芸丸が就航して、神戸までロータリアンを運びました。

なお、第3回の太平洋会議は、1930年にシドニーで開かれて日本からは11名が参加、第4回は1932年にホノルルで開かれて2名参加、1935年のマニラ大会には16名が参加しています。

日本に地区を設ける希望が高まったため、RIに地区設置を申請した結果、1928年7月、朝鮮、満州を合わせて第70地区として、RIより正式承認を受けることとなります。正式認定とはいうものの、当時7クラブしかなかった地域を地区として承認することにはかなりの無理があり、日本の強引な提案にアジア各地のクラブからの反発もあり、RIもしぶしぶ了解したというのが真相のようです。

1928年7月に第70区が設置され、1929年4月27日に京都クラブがホストして華頂会館および京都ホテルを会場として、第1回地区大会が開催されました。

初めての地区大会なので、全く様子が分からず、ホストの京都クラブはその準備が大変だった模様です。夜来の雨も上がって、午前10時に京都華頂会館で開会。京都クラブ副会長シャイベリー夫人のピアノ伴奏による「Rotary」の合唱に続いて、米山ガバナー、京都市長の挨拶、各地ロータリークラブ代表の現状報告の後、協議に移りました。次期ガバナーに米山梅吉が再選され、次の大会開催地が神戸に決定しました。

東京クラブから提案されていた **He profits most who serves best** を撤回する案は保留となり、その他7項目が決議されました。

午前中の会議終了後、知恩院で精進料理の昼食をとり、午後は島津製作所、歌舞練場を

訪れました。夜は京都ホテルで晩餐会が行われました。その席上、米山夫人に薔薇の花を入れた銀の花瓶が贈られるはずが、薔薇の代わりに藁一束が届いて大騒ぎになったというエピソードが残っています。翌日は、エクスカージョンとして京都御所と日活撮影所、嵐山を訪れています。

第2回地区大会は翌1930年5月に、RI会長代理としてフランク・マルホランド氏を迎えて、神戸で開催され、10クラブ、会員家族合わせて437名が出席しました。この席上で、米山梅吉がガバナーに三選されました。奉天クラブから、日本語のロータリー・ソングを作ること、奨学金制度を作ること、ガバナー月信を発行することなどが提案されました。大会2日目には吉野丸による瀬戸内海巡航がおこなわれました。

奉天クラブの提案を受けて、1930年5月より、ガバナー月信が発行されました。井坂ガバナーからガバナー月信が書かれたという説がありますが、これは間違いで、米山ガバナー3期目からガバナー月信がだされています。1930年5月から1931年3月までは「コンフェレンスまで」、1931年4月から年6月までには「コンフェレンスのあと」という副題がつけられています。なお、表紙にはガバナーに三たび選ばれたことが、米山梅吉の自筆で書かれています。

1931年、横浜で開催された第3回地区大会で井坂孝がガバナーに選ばれ、1932年の大阪大会で再選されます。井坂ガバナーの年度からは定期的にガバナー月信が発行されるようになりましたが、井坂ガバナー月信の第1号から第3号までは現存していません。

1933年の東京大会で村田省蔵がガバナーに選ばれ、1934年名古屋大会で再選されますが、それ以降は毎年交代するようになりました。

地区大会はその後1935年京都、1936年神戸、1937年札幌、1938年ソウル、1939年別府とRI離脱まで開催されています。

その後、1931年 台北、1932年 札幌、広島、1933年 福岡、小樽とクラブ拡大も順調に進みました。